



## 彼を知り己を知れば百戦あやうからず

和牛子牛市場の相場は、牛肉消費と密接に関係しています。

贈答需要や長期休暇等が重なる年末年始・お盆前後やGW等は、一般的に牛肉の需要期であり、子牛市場においても需要期と捉えられます。

需要が高まる時期に、しっかりと高品質の商品を提供出来ているか、今一度確認してみましょう。

## 1 子牛市場(去勢)の動向を把握しよう

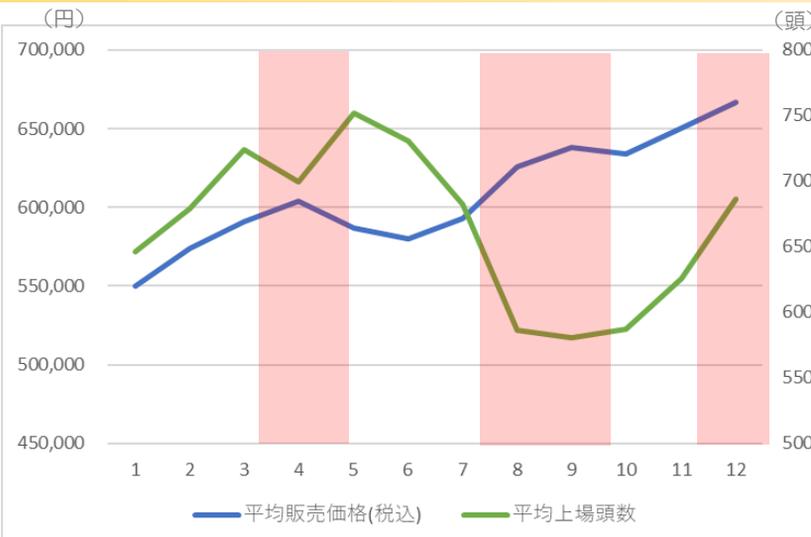


図1 去勢子牛の中央市場平均価格及び上場頭数の推移(H25~H27)

数年にわたり上昇トレンドが続いていたH25~H27と、下降トレンドが続いているR4~R6の中央市場(去勢)平均価格及び上場頭数の推移を示しました(図1、図2)。

**販売価格**は、年により変動があるものの、**春と夏、そして年末にかけてピーク**があることが見て取れます。

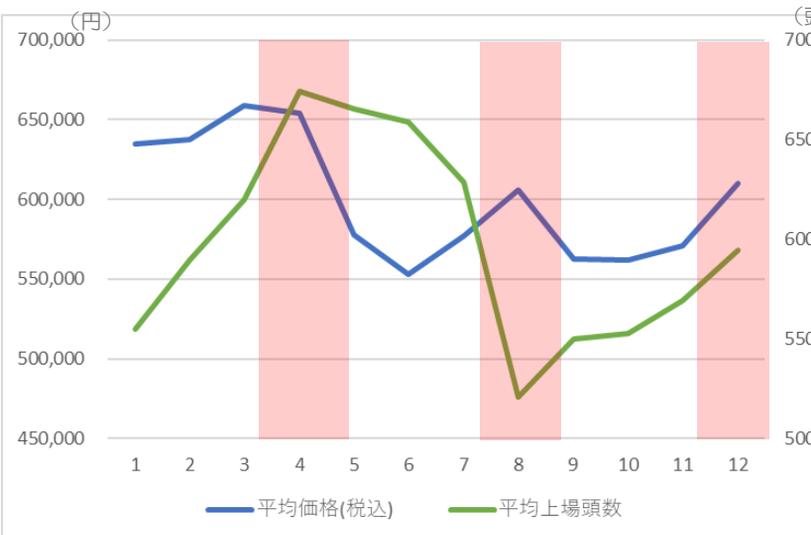


図2 去勢子牛の中央市場平均価格及び上場頭数の推移(R3~R6)

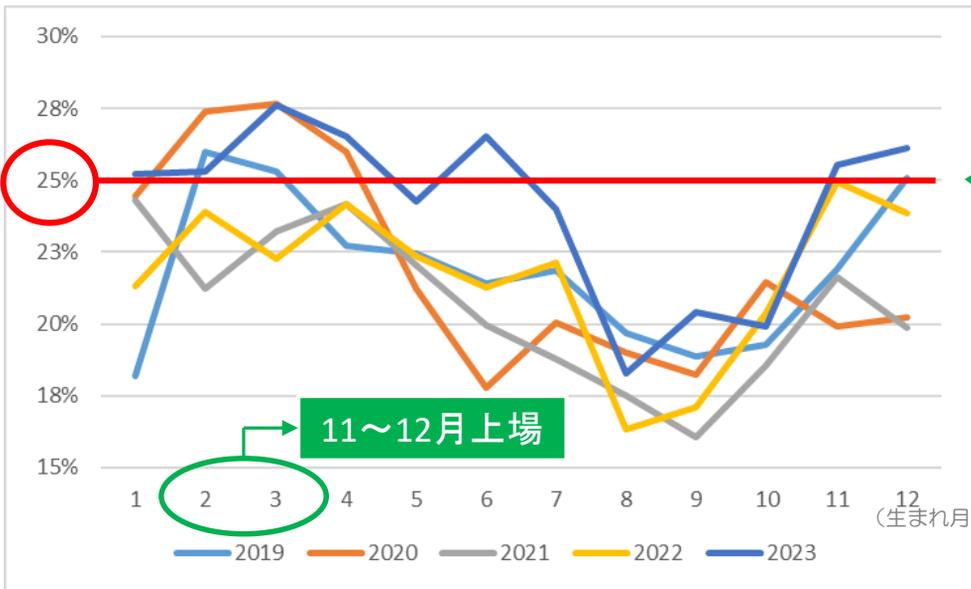
**上場頭数**は**3~6月(初夏~夏生まれ)**がピーク、逆に**8~10月(秋~初冬生まれ)**はピーク水準から100頭程度少なくなる(2割減)傾向がありました。

**5~6月**は、牛肉**需要が落ち着く一方で上場頭数が多い**ため、より**相場は下がりやすくなる**と思われます。

なお、令和5年の家計消費動向調査によると、依然として節約志向が強く、**和牛の需給は緩和状態**。牛肉から豚・鶏肉への需要シフトが続いています。

※取引価格には消費のトレンドや経済状況等多くの要因が複雑に関係するため、「毎年必ずそうなる」という訳ではありません

## 2 上場子牛(去勢)の発育を確認しよう



上場された去勢牛の4分の1がDG1.0 kg/日未満

※DG1.0未満  
=280日齢で280kg未満  
(体重が、日齢kg未満)

図3 生まれ月別のDG1.0未満去勢子牛の上場割合 (中央市場)

去勢子牛の上場時の増体 (DG) を生まれた月に着目して分析すると、「8~10月生まれ (5~7月上場)」は比較的発育が良い牛が多く (DG1.0未満上場率が低い)、「12~4月生まれ (9~1月上場)」は比較的小さい牛が多い (DG1.0未満上場率が高い) という差があることが分かりました。

特に、2~3月生まれの子牛は年末に向けての需要期に販売する子牛となりますが、DG1.0未満上場率が28%を超える年もあり、上場牛の品質の不均一さが示されました。

### 《子牛を大きく育てよう!》~岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから~

マニュアルのダウンロードはこちら

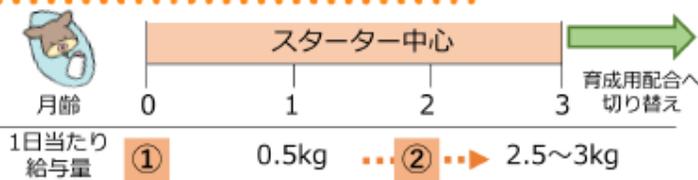


#### ○スターター給与について

スターターは、栄養補給や、第一胃の絨毛を刺激して発達させるために重要な飼料です。絨毛が発達することで、栄養を効率よく吸収し、体高のある子牛になります。

容器は、視界をさえぎらない浅めのものにしてね! 安心してごはんを食べられるよ!

#### スターター給与のポイント



#### ① 生後1週間頃、少量から開始

最初は、食べ物だと認識しないことが多いため  
・子牛の口に強制的に数粒入れる  
・代用乳 (粉) や糖蜜をかけて嗜好性を高める

#### ② 給与量の切り替えは徐々に

急激な餌の変化は、下痢などの原因になるため、切り替えるときは牛の状態 (糞) を見ながら徐々にいきましょう。



#### ③ 水 (寒冷期は温湯) の給与

常時きれいな水が飲めるように準備



#### ④ 餌ごとに別な容器を用意

容器を別々にして残餌の量を確認し、確認後、残餌は必ず取り除きましょう!



#### ⑤ 粗飼料は初めは遊び食い程度に

第一胃が発達するまで粗飼料は消化できません。目安は50g/日から。